

令和7年度熊本県農業コンクールの経営体部門にて、(株)マルカマが秀賞を受賞

農政課 農政係 ☎096(232)4916



令和7年度熊本県農業コンクール大会表彰式が1月29日、ホテル熊本テルサで開催され、本町のにんじん農家、(株)マルカマ(出分)がグランプリとなる経営体部門の秀賞および農林水産大臣賞を受賞されました。



左から鎌田結花さん、鎌田登さん

熊本県農業コンクールとは？

本大会は、県内の農業および農村地域の振興発展に積極的に取り組み、豊かで住みよい農村社会の形成に寄与している優秀な農業経営者、営農集団および農業を支援する活動を行っている企業・団体・個人を表彰し、その活動内容を広く紹介することで、農業に対する県民の理解を深めるとともに、農業・農村の活力あ

る発展に資することを目的として実施されています。そのなかでも、(1)経営体部門(2)新人王(3)地域農力部門がありますが、今回エントリーした経営体部門は、農業経営の合理化、近代化を図るため、経営、生産技術の改善に積極的に取り組み、ゆとりのある経営、企業的経営を目指し、地域の農業振興と地域社会の活性化に寄与している農業者、農業を営む法人などを、①経営に対する将来目標を持ち、積極的な経営参画を行い、自らが進むべき方向への実践と成果②経営・技術の改善に向けて創意工夫③情勢を的確にとらえ、消費者のニーズを踏まえた農業④地域農業の



事例発表の様子

振興および地域社会の活性化への貢献度などを踏まえて審査することとしています。

(株)マルカマを紹介しします

今回、菊池地域の審査会を経て、各地区の代表11経営体のなかで最も優秀とされる「秀賞」を受賞した(株)マルカマをご紹介します。久保田地区を拠点に、冬・春ににんじんを合わせて約60畝・2,400トを生産する大規模経営を展開しています。取締役である鎌田登さんは、代々ににんじん農家の家に生まれ、平成16年に就農しました。その2年後に、登さんの妻で同社代表取締役の鎌田結花さんが就農しました。その後、平成22年に登さんの父である道雄さんから登さんが経営を譲り受け、平成25年には(株)マルカマを設立しました。

(株)マルカマが作るにんじんの特徴は、商標登録されている自社ブランド「美にんじん」とおり美しいにんじんです。その秘訣は、収穫されたにんじんの泥を落とす洗浄の過程で、特殊なブラシを導入して毛穴の泥まで落とすためです。また、自動選別機と人の目で厳しい選別を行ったにんじんのうち、首元から先端ま



高品質なにんじん生産に欠かせない耕うん作業

でしっかり太いにんじんのみ自社ブランドとして出荷しています。美にんじんは、こだわりの土づくりにより作られ、化成肥料ばかりではなく、馬由来の完熟たい肥を使うことで栄養豊富な土となっており、また、丁寧な耕うんでにんじんが育ちやすい土壌となっています。そして最も注意する種まき後のかん水作業にも力を入れているとのこと。生育初期が最も収穫・結果に直結するので、かん水チューブによる散水で乾燥を防ぎ、高い発芽率を実現されています。また60畝も耕作するメガ

ファームとなった要因として、耕作を依頼された農地は喜んで引き受け、地域の信頼を得たことから、20年前に比べ、30倍もの面積を耕作するまでに至りました。そのほか地域貢献として、白川中流域で実施している地下水涵養の取り組みに積極的に参画したり、子ども食堂へのにんじんの提供を行ったりしています。このように、優れた農業経営のみならず、地域のリーダーとしての姿勢、多様な人材育成・活躍による地域農業振興というさまざまな点で高い評価を受けたことが、今回の受賞につながりました。

受賞に喜びの声

受賞された結花さんは、「このような賞をいただいたことは大変光栄です。いろんな人々の支えがあってこそだと強く感じております。そして順調に会社が成長できていることは、夫や従業員がそれぞれに頑張ってくれたからと思っています。12年前、従業員は2名でしたが、現在は10名を超え、従業員と従業員の家族を背負っているという職責も感じています。これからも、従業員がいて、その家族がいての規模拡大、会社の

成長だと思っていますので、これからも従業員を大事に育成しながら、地域の農家さんたちとも切磋琢磨し、頑張っていきたい」と語りました。



受賞者を代表して答辞を述べる結花さん

町では(株)マルカマを含め、さまざまな農業者を支援するため、独自の支援策を展開しています。取り組みのなかにあった地下水涵養事業のほかに、農業用機械などの整備に対する助成や販売促進支援など、多様な面で本町の基幹産業である農業振興を図ってまいります。